令和８年 11 月 19 日

各　　位

会 社 名　株式会社アイビー化粧品
代表者名　代表取締役社長　白銀　浩二
（コード番号 4918 東証スタンダード）
問合せ先　常務取締役　経営管理部　Manager
役職・氏名　中山　聖仁
電　　話　０３-６８８０-１２０１

抗がん物質（新規化合物）の国際（PCT）出願の国内移行による特許査定受領に関するお知らせ

株式会社アイビー化粧品（本社：東京都港区赤坂 社長：白銀浩二）は、抗がん物質（新規化合物）「２４位ジ置換コレステロール配糖体」の発明について、学校法人工学院大学と共同出願をし、特許査定を令和８年11月13日に受領いたしました。今後、所定の手続きを経て、特許権を設定登録することになりますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 概要

【国際出願番号】PCT/JP2025/032596

【特許出願番号 Patent application number】特願 2026-548862

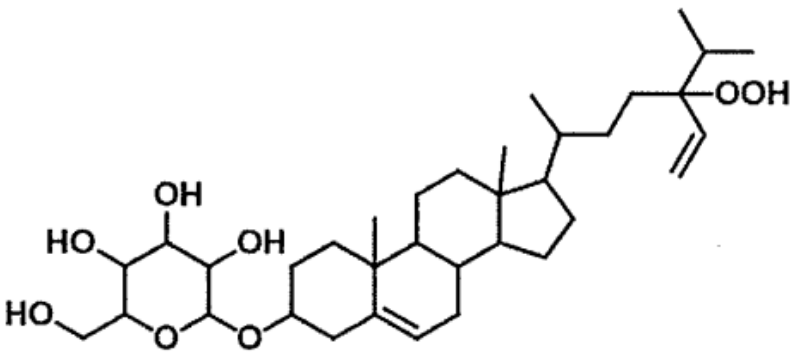
【発明の名称 Title of the invention】 ２４位ジ置換（２４イジチカン）コレステロール配糖体（コレステロールハイトウタイ）

【特許出願人 Patent applicant】 学校法人工学院大学、株式会社アイビー化粧品

【請求項 Claim 1】

下記の構造式で表される２４位ジ置換コレステロール配糖体。

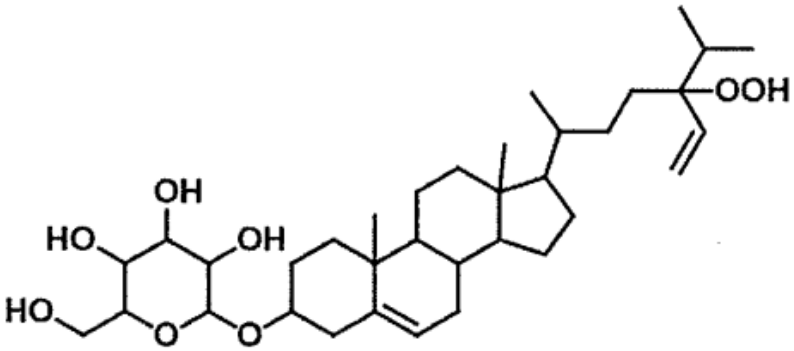
【化１】



【請求項 Claim ２】

下記の構造式で表される２４位ジ置換コレステロール配糖体またはその薬学的に許容される塩を有効成分とするがん細胞に対して栄養飢餓状態で細胞死を誘導する抗腫瘍剤。

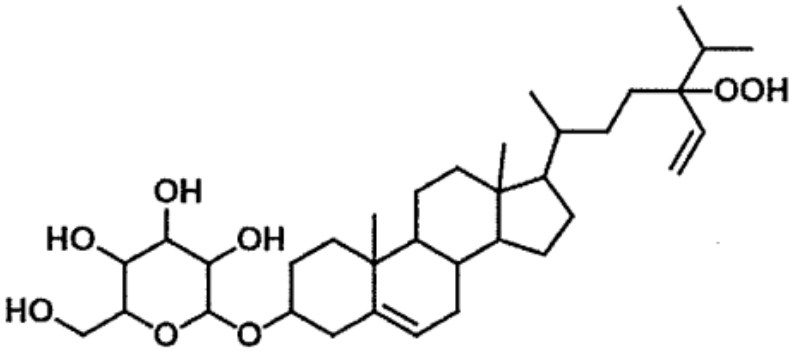
【化２】



【請求項 Claim ３】

インドソケイから単離精製することによる下記の構造式で表される２４位ジ置換コレステロール
配糖体の取得方法。

【化３】



本発明は、化粧品の開発研究を進める中で、研究の副産物として、キョウチクトウ科インドソケイ属に属する落葉樹であるインドソケイ(*Plumeria rubra*) から、がん細胞に対して栄養飢餓状態で選択的に細胞死を誘導する新規化合物として「２４位ジ置換コレステロール配糖体」を発見し、単離・構造決定したものであります。

(参考 Reference)

がん細胞は、固形がんの場合、腫瘍において血管新生を冗進させ、血流によって供給される酸素や栄養を利用して増殖しますが、増殖が急速であるため、多くの腫瘍の深部では血管新生が不十分となり、低酸素・低栄養といった栄養飢餓状態に陥っています。しかしながら、がん細胞の中には、栄養飢餓状態に耐性を有し、増殖能を維持することができるがん細胞が存在することが知られており、近年、こうしたがん細胞が有する栄養飢餓耐性能を阻害することによるがん治療方法が注目されています。

２.本発明の産業上の利用可能性について

本発明における「２４位ジ置換コレステロール配糖体」は、天然由来の活性成分を化合物単位で特定した物質特許（※）に係るものであり、かつ新規化合物（今までに発見されていなかった物質）であります。その薬理効果である、がん細胞に対して栄養飢餓状態で選択的に細胞死を誘導することは、医療分野において、産業上の利用可能性が期待されます。当社といたしましては、自社製品への応用とともに、医薬品製

造会社等へのライセンス契約などの形で、当該発明の社会利用を推進していく所存です。
　そのため、医薬品製造会社等へのより高度なライセンス供与が可能であると考えており、そのライセンス料は将来（特許有効期間：令和 27 年９月 17 日まで、ただし医薬品については最大５年間の延長制度有）に渡って、当社の収益に貢献できる可能性があります。

　（※物質特許とは、新規化合物を発明した場合に、その化合物自体に対して与えられる特許であり、物質特許を持つ権利者はその物質を独占して製造および販売をすることができます。また、厚生労働省によるジェネリック医薬品の承認等も、物質特許がある場合、認可されないので、強力で権利範囲が広く価値が高いとされています。）

（背景）
　当社は創業来、創業者白銀あきらが「自分の命にかえても、良い製品を作り続ける。」と述べ、開発研究所を整備し、力を入れてまいりました。創業者が他界した後も、その伝統を受け継いでおります。
　そのような中で、ドクターズコスメの流行や、医薬品会社の化粧品市場への参入など、化粧品業界を取り巻く環境は変化しております。当社における開発研究も、より多くのエビデンスを確保するために、細胞の仕組みの研究にも力を入れております。
　細胞の研究を進めていけばいくほど、医薬品と近いレベルの研究を行うこととなり、医薬品業界と化粧品業界は、開発研究において重なる部分が増えております。また、当社は植物エキスなどを使った自然由来の独自原料の探求も従前から行っており、そのような化粧品原料の基礎研究の蓄積が、このような特許査定受領の背景としてございます。また、当社が開発研究力を強化する中で、活性成分を化合物単位で同定することの出来る研究力をつけてきたことも要因のひとつです。

３．今後業績に与える影響
　本発明は、今後当社の業績に与える影響が未定です。本特許の性質上、医薬品分野への応用を進めてまいります。仮に医薬品分野へのライセンス利用を展開する場合、医薬品製造会社が利用し開発した医薬品において行政機関の許可が必要になるなど、長期の期間が必要になりますので、マイルストーン契約を志向してまいります。（本特許は、学校法人工学院大学との共同出願であり、権利割合は 50%：50%です。特許権取得、維持管理の手続き担当者は、株式会社アイビー化粧品で合意しております。）
　今後、当社の業績に影響を及ぼす事象が判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

（将来に関する記述等についての注意点）
　本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上